

## 中学校 保健体育科（体育） 学習指導案

指導者 松本 茂

- 日 時** 令和2年12月4日（金） 第3限 10:40～11:30  
**場 所** グラウンド（雨天時：体育館）  
**学年・組** 中学校3年男子前半28人（A組10人 B組9人 C組9人）  
**単 元** ゴール型（サッカー）  
**目 標**
1. 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防する（知識及び技能）
  2. 攻防において自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて仲間と協力できる（思考力、判断力、表現力等）
  3. 互いに助け合い教え合おうとすることなど、健康・安全に留意して活動できる（学びに向かう力、人間性等）

### 指導計画（全12時間）

第一次 個人的技能の習得・確認 2時間

第二次 個人的技能の向上。集団的技能の習得 3時間

第三次 自己やチームの課題を理解し、戦術に応じた技能で仲間と連携しゲームを開拓する。 7時間（本時 1/7）

### 授業について

サッカーを「する」中心的な面白さは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを決めたり、グループ戦術を活かして得点を防いだりしてチームに貢献することだと考える。また、サッカーは「みる」スポーツとしても世界中で多くの人々に親しまれており、その要因はルールが簡単であることや、勝敗が分かりやすいことにあると考えられる。しかし一方で広いフィールドで行われるため、ゲーム様相をよく理解していないと、どこを見れば良いのか分かりにくい。テレビ放送などで映らないエリアで何が行われているかを想像することも必要になってくる。

一般的に成人に比べて中学生の視野は狭く、ボールばかりに意識が集中してしまい、空間を意識したり、全体の動きを広く捉えることが難しい。その為、授業で取り扱う範囲が「する」にとどまると個人的技能に偏ってしまいがちである。

そこで本单元では「役割に応じて、いま何をすべきかを考え、主体的に行動する」ことを目標とし、全体のゲーム様相を見ながらプレーしようとする姿を目指した。学習内容として、個人的技能はパスやドリブル、シュート。集団的技能はグループ戦術に主眼をおき、攻撃においてパスをつないでシュートを狙うためにいかに仲間と連携して動けるかを考えさせたい。

本時では2種類のゲームを行い、役割設定の中で責任を自覚し、状況把握から自らの判断で仲間へ働きかける重要性に気づかせたい。

### 題 目 サッカーに学ぶ「自由・自主・自律」

### 本時の目標

1. 攻撃において、自分と全体との関係を考えながら、ドリブルやパスを用いて、シュートを狙うことができる。（運動の技能）
2. 課題に対して、気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。（運動における問題解決能力）

る思考力・判断力・表現力等)

#### 本時の評価標準（観点／方法）

1. 攻撃において、自分と相手との関係を考えながら、ドリブルやパスを用いて、シュートを狙うことができる。（運動の技能／活動観察）
2. 課題に対して、気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。（運動における思考力・判断力・表現力等）

#### 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】 出欠点呼 本時の説明 準備運動	○集合 ○本時の学習内容を把握し、課題を確認する ○準備運動	・健康観察、見学生徒への指導。 ・課題を理解できているか確認する。
【展開】 グループごとの活動  第1ゲーム 見える	○ボール操作の確認 ・リフティング、パス、ドリブル ・ボールを止めて動かす ・ミニゲーム  ○役割設定ゲーム ・チームでポジションを確認して配置する。 ・それぞれの役割を果たしてゲームを展開する。	・課題意識を持って積極的に取り組めるよう声かけを行う。  ・生徒同士の有効な戦術的声かけができるよう促す。
第2ゲーム 比較する	○全員攻撃、全員守備ゲーム ・基本的役割は継続。 ・ゲーム全体の動きから、自ら判断して行動を決める。	・全体の様子を把握するために、生徒同士でどのように動けば良いか声かけができるよう促す。
【まとめ】 本時のまとめ まとめる  片付け	○本時の振り返り ・グループの課題がどの程度解決されゲームに活かせたか。 ・サッカーに学ぶ学校生活を理解する。	・気づきを共有する。
備考	・雨天時は体育館で行う。	